

日蓮は日本六十六箇国島二の内に、五尺に足ざる身を一つ置処なく候しが、波木井殿の御育みにて九箇年の間、身延山にして心安く法華経を誦し奉り候つる志をば、いつの世にかは思忘候べき。しらずや、此人は無邊行菩薩の再誕にてや御座すらむ。

日蓮は日本第一の法華経の行者也。日蓮が弟子檀那等の中に日蓮より後に來給候はば、梵天・帝釈・四大天王・閻魔法王の御前にても、日本第一の法華経の行者、日蓮房が弟子檀那なりと名乗て通給べし。此法華経は三途河にては船となり、死出の山にては大白牛車となり、冥途にては燈となり、靈山へ参る橋也。靈山へましまして良の廊にて尋させ給へ、必待奉るべく候。

弘安五年十月七日

波木井殿 其外 人々御中

日蓮在御判